Ⅰ　全体概要

1　調査の概要

（1）調査実施日

令和８年４月23日（木）・・・・・・・・・・・・・・・・・・小学校国語、小学校算数、中学校国語、中学校数学

令和８年４月20日（月）～23日（木）・・・・・・・中学校英語「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」調査（CBTを用いたオンライン方式）
中学校生徒質問調査（オンライン方式）

令和８年４月24日（金）～5 月29日（金）・・・中学校英語「話すこと」調査（CBTを用いたオンライン方式）

令和８年４月24日（金）～5 月８日（金）・・・小学校児童質問調査（オンライン方式）

令和８年４月１日（水）～17日（金）・・・・・・・学校質問調査実施（オンライン方式）

（2）調査対象

小学校第6学年の全児童

中学校第3学年の全生徒

（3）調査内容（教科、質問調査）

① 教科　　小学校　国語（45分）　算数（45分）

中学校　国語（50分）　数学（50分）

英語「読むこと」、「書くこと」（50分）

英語「聞くこと」（「生徒質問調査」と併せて50分）

英語「話すこと」（20分）

② 質問（オンライン方式）　　児童生徒質問調査　　学校質問調査

（4）参加公立学校数

小学校参加校数　　本県　237校（全国　18,126校）

中学校参加校数　　本県　149校（全国　　9,249校）

（5）参加公立児童生徒数

小学校児童数　　7,936名【国語】（全国　922,411名）

7,935名【算数】（全国　922,778名）

中学校生徒数　　7,698名【国語】（全国　841,873名）

7,698名【数学】（全国　842,491名）

7,350名【英語3技能】（全国　839,203名）

2 教科ごとの状況

○平均正答数・平均IRTスコア、平均正答率及び標準化得点

【平均正答数・平均IRTスコア】

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	7.9	7.9
	算 数	8.7	9.0

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	9.5	9.6
	数 学	8.8	9.1
	英 語	477	499

※英語は、全国（国公私立）での結果公表であった。

【平均正答率】　※都道府県は、整数値での結果公表であった。

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	60	60.9
	算 数	55	56.4

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	63	63.9
	数 学	55	57.0
	英 語		

【標準化得点】

※ 標準化得点とは、全国（公立）の平均正答数を 100 とした時の本県（公立）の平均正答数である。中学校英語は、全国（国公私立）の平均IRTスコアを 100 とした時の本県（公立）の平均IRTスコアである。

		青森県（公立）	全国（公立）
小学校	国 語	100	100
	算 数	97	100

		青森県（公立）	全国（公立）
中学校	国 語	99	100
	数 学	97	100
	英 語	96	100

※英語は、全国（国公私立）での結果公表であった。

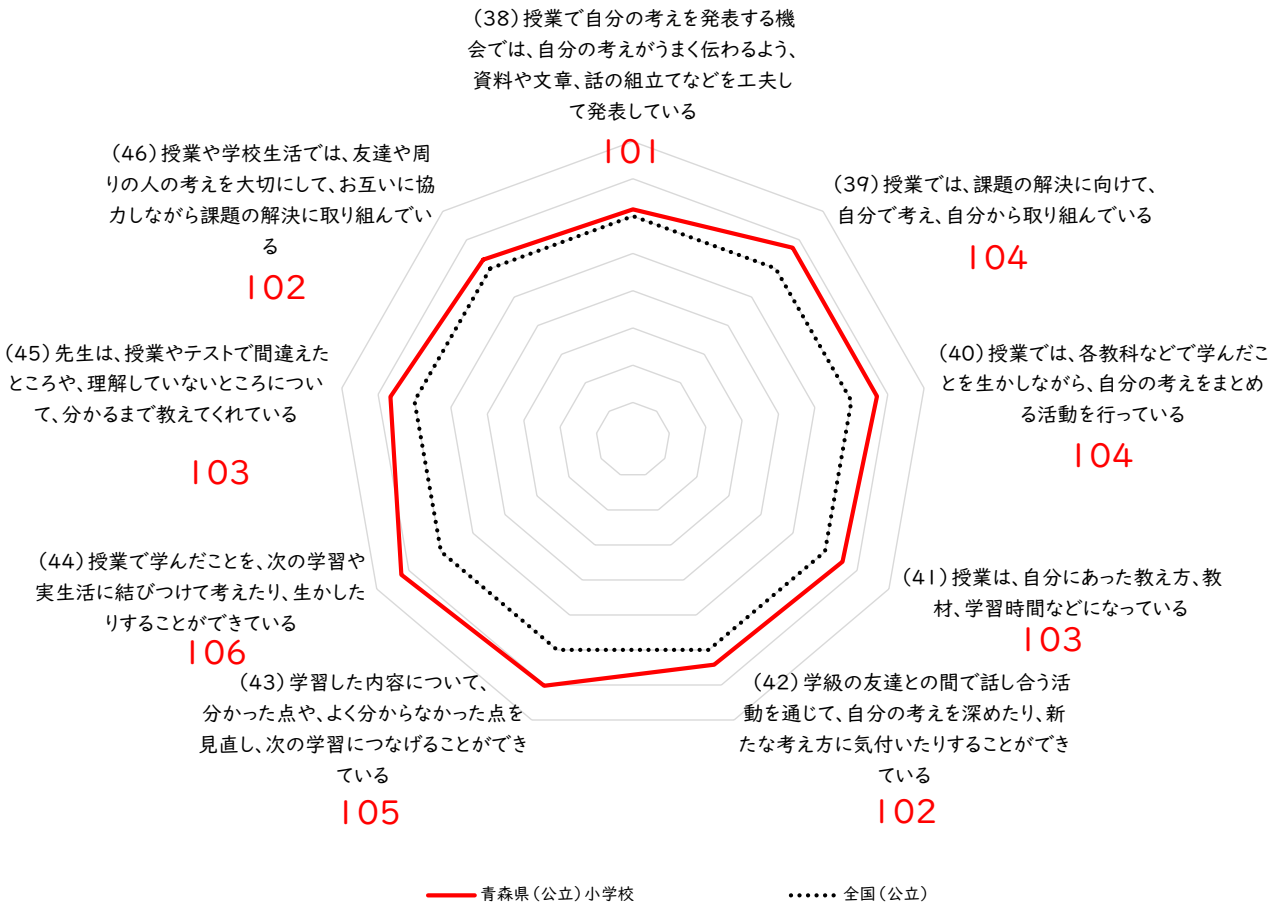
・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数は、全国と比べ、±0.0～0.3 である。中学校英語の平均IRTスコアは、全国と比べ、−22 である。
・標準化得点では、全国の平均正答数と比べ、本県は、±0～4 である。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国と同程度と捉えている。

3 質問調査結果

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①小学校(児童質問調査)



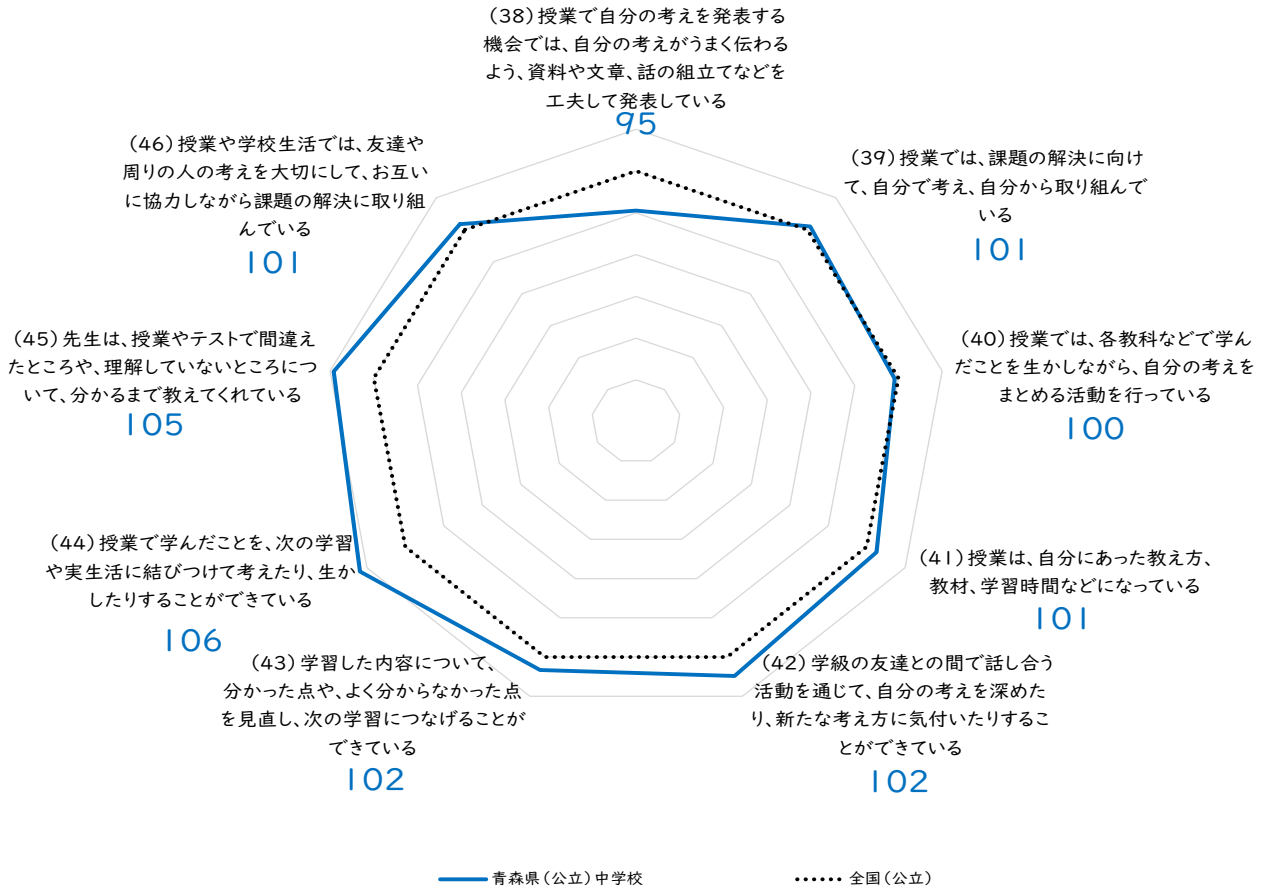
※数値は全国(公立)を100とした青森県(公立)小学校及び中学校の肯定的回答の割合である。本県の肯定的回答数÷全国の肯定的回答数×100で計算している。(以下同様)

・全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、(43)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、(44)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」の割合が全国を大きく上回っている。

○本県小学校では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

②中学校（生徒質問調査）

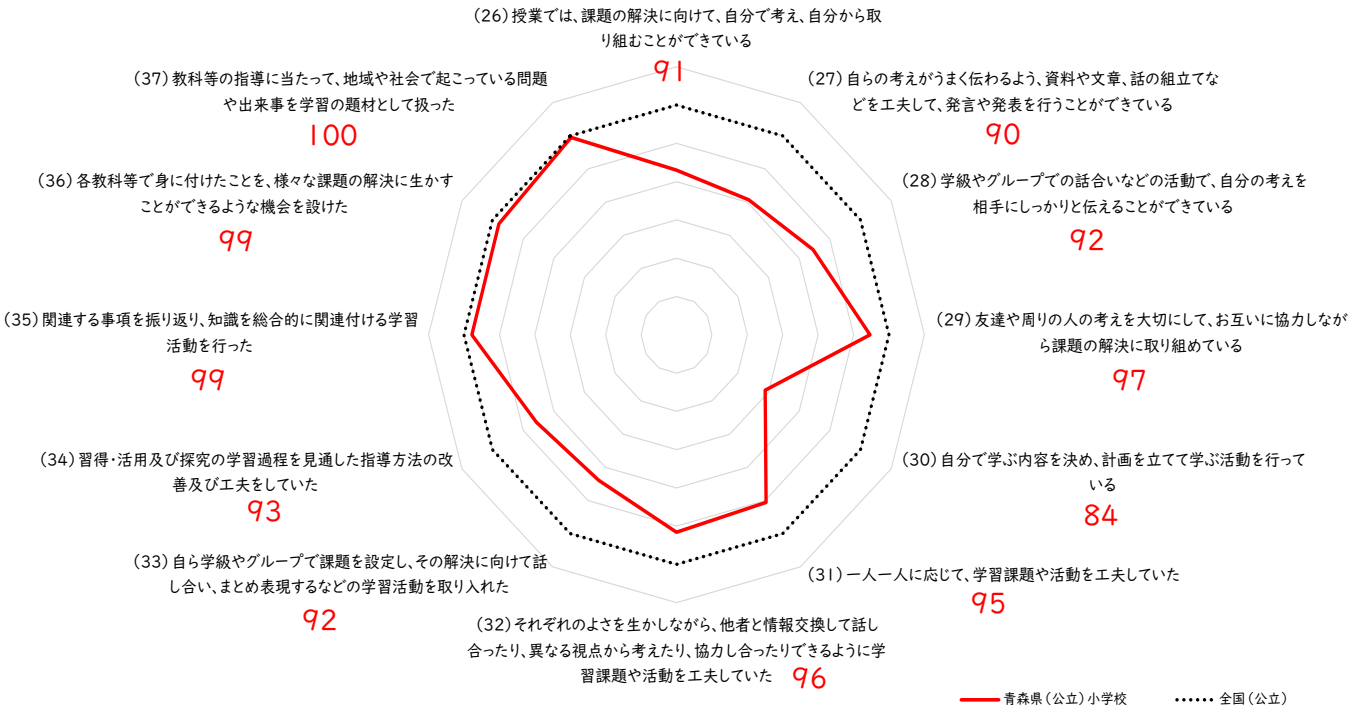


・概ね全ての項目で肯定的回答の割合が全国を上回っている。
・特に、（44）「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」、（45）「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」の割合が全国を大きく上回っている。
・（38）「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」の割合は、全国を大きく下回っている。

○本県中学校では、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が進められていると考えられる。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①小学校（学校質問調査）

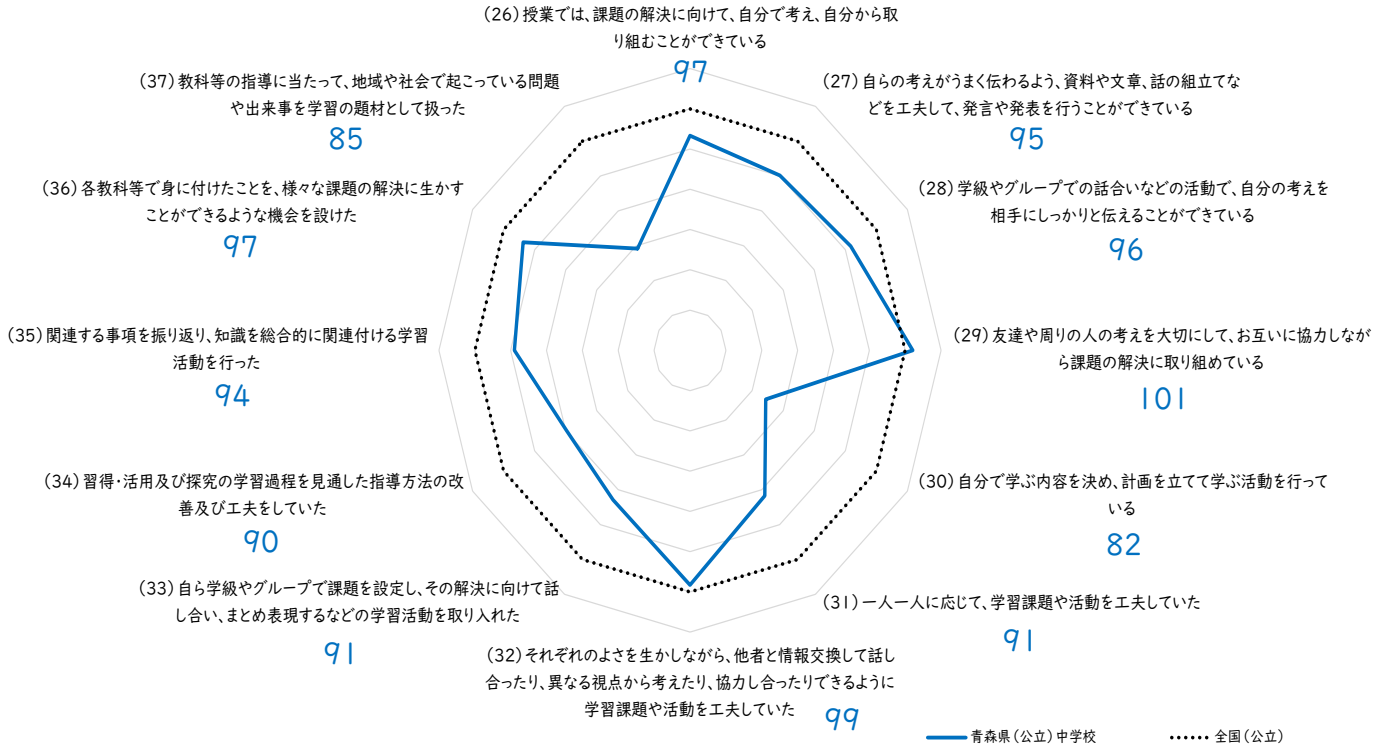


・(37)「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として扱った」については、肯定的回答が全国と同じである。
・(26)、(27)、(28)、(30)、(31)、(33)、(34)については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

○学校質問調査においては、全国を大きく下回っている項目が多い。下回っている項目の中には、各小学校は課題と捉えているが、児童は肯定的に捉えている項目が多く見られる。児童の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられる面もあるため、児童の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き取組を続けていただきたい。

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

②中学校（学校質問調査）

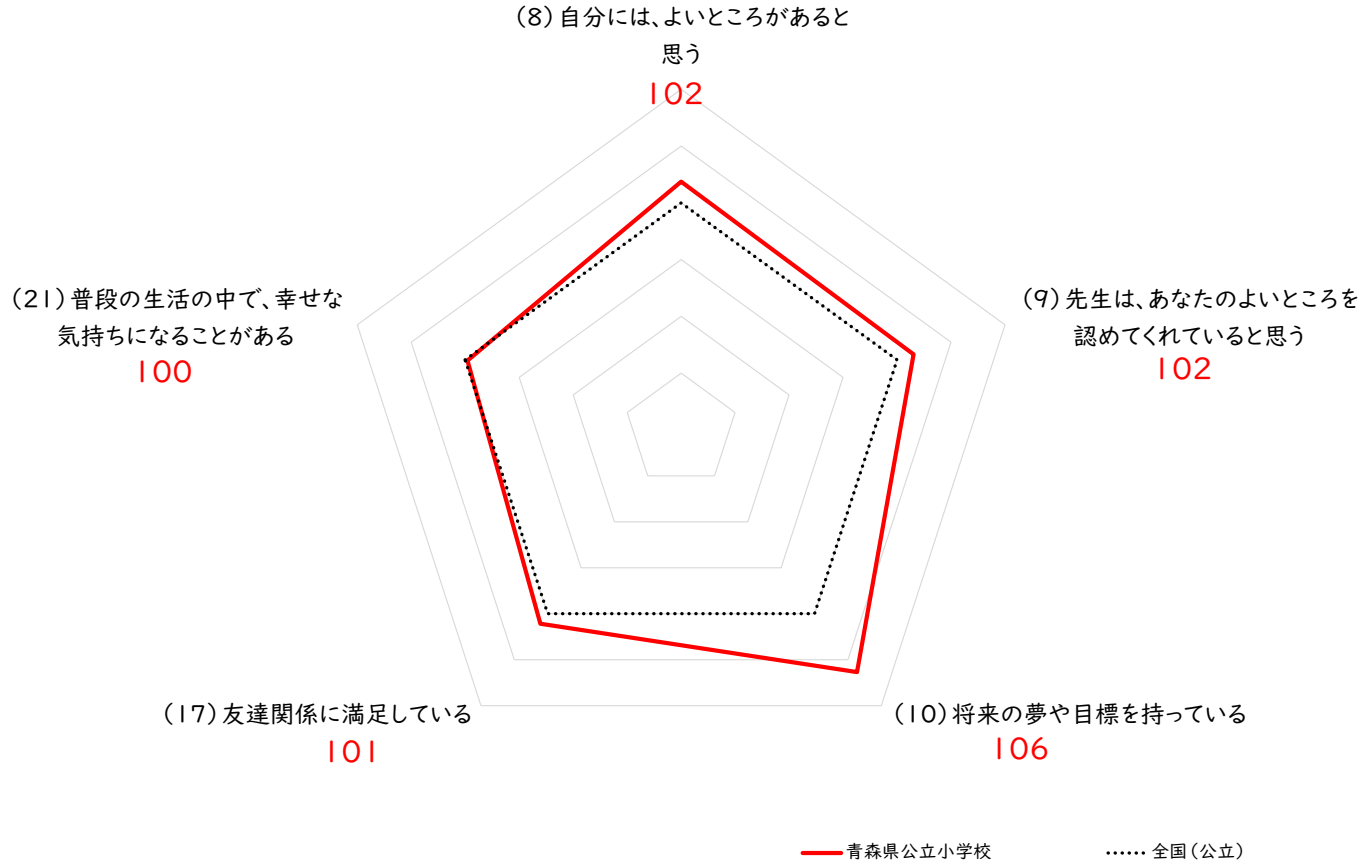


・（29）「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めている」については、肯定的割合が全国を上回っている。
・（27）、（30）、（31）、（33）、（34）、（35）、（37）については、肯定的回答の割合が全国を大きく下回っている。

〇学校質問調査においては、全国を大きく下回っている項目が多い。下回っている項目の中には、各中学校は課題と捉えているが、生徒は肯定的に捉えている項目が多く見られる。生徒の肯定的な評価は、各学校の取組の成果と考えられる面もあるため、生徒の肯定的な評価を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に、引き続き取組を続けていただきたい。

(2) 児童生徒のウェルビーイングに関する取組状況

①小学校（児童質問調査）

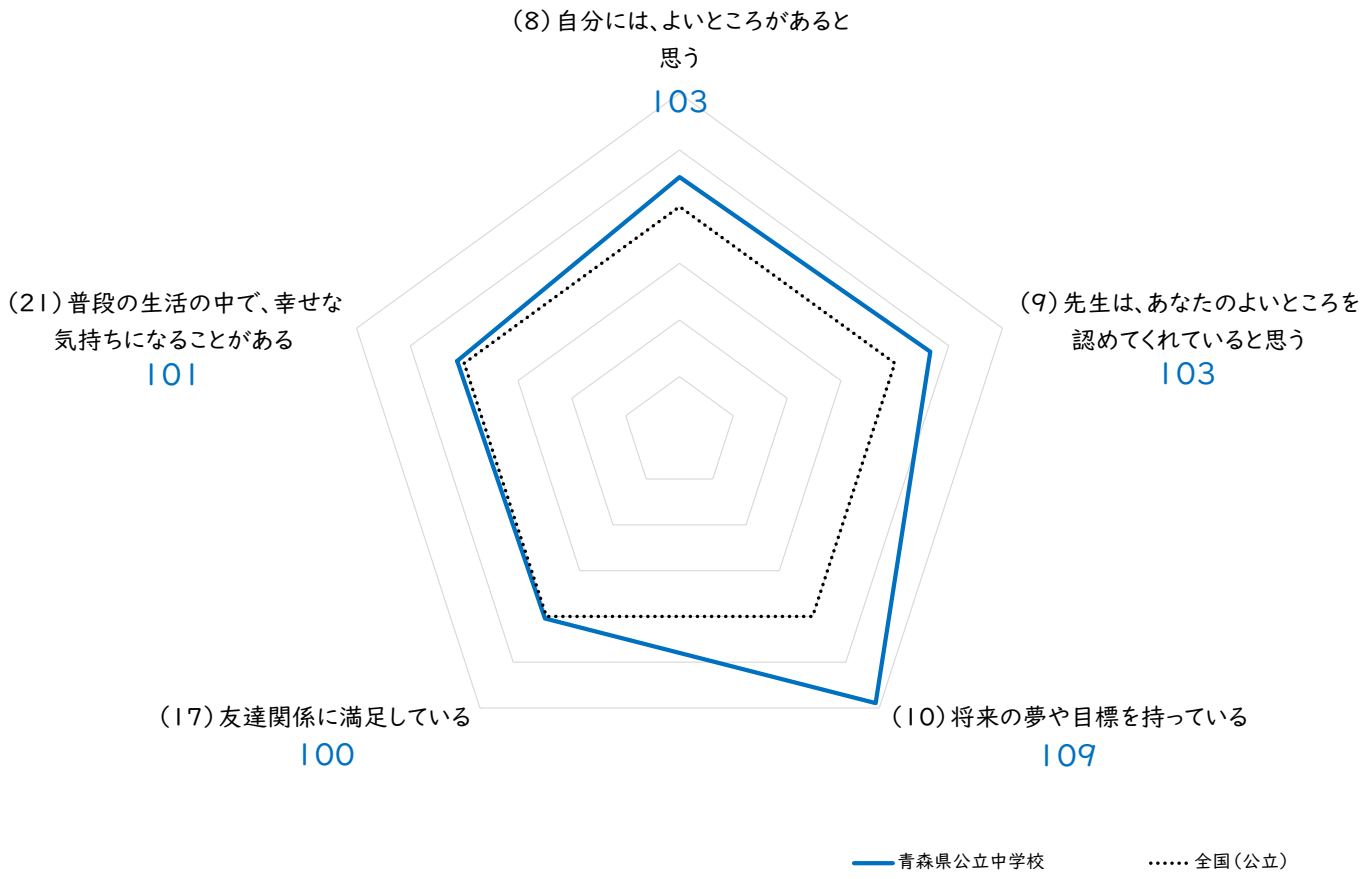


・(10)「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・(21)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」については、肯定的回答の割合が全国と同じである。それ以外の項目は、肯定的回答の割合が全国を上回っている。

○本県の教育施策の大綱にも掲載されているこどものウェルビーイングに関する状況は、昨年度に続き、概ね全国を上回る良好な状態にあり、学びに対する前向きな姿勢の表れであると捉えられる。引き続き、様々な教育活動を通じて、取組を続けていただきたい。

（2）児童生徒のウェルビーイングに関する取組状況

②中学校（生徒質問調査）



・（10）「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的回答の割合が全国を大きく上回っている。
・（17）「友達関係に満足している」については、肯定的回答の割合が全国と同じである。それ以外の項目は、肯定的回答の割合が全国を上回っている。

○本県の教育施策の大綱にも掲載されているこどものウェルビーイングに関する状況は、昨年度に続き、概ね全国を上回る良好な状態にあり、学びに対する前向きな姿勢の表れであると捉えている。引き続き、様々な教育活動を通じて、取組を続けていただきたい。